



ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会

2020年(令和2年)5月15日号 No.1825

目次

■ 新型コロナウイルスを巡る日ロ両国の対応	Yu.ストノーギナ 1
■ 統計速報	9
2020年1～4月のロシアのブランド別乗用車販売台数／9	
2020年1～3月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／10	
2020年1～3月の日ロ貿易／11	
■ キーパーソン	13
ナザルバエフの長女、上院議長解任／13	
レシエニコフ露経済発展相が対日担当に／13	
■ 新型のコロナウイルス感染拡大に関するロシアの対応	ROTOBOモスクワ事務所 14
■ エトセトラ	48
「モスクワ企業によるウェブピッチセッション」のご案内／38	
■ トピックス	48
日ロ投資基金が新型コロナ検査へ投資／48	
日ロ首脳、電話会談を実施／48	
カザフスタン政府が産油削減法令に署名／48	
ANA羽田～モスクワ便の開設が延期／49	
NIS諸国における新型コロナウイルス関連のニュース／49	

新型コロナウイルスを巡る日ロ両国の対応

ロシアNIS経済研究所 特別研究員
ユーリア・ストノーギナ

はじめに

オランダの学者ハールト・ホフステードは1980年代に広範な調査を行い、国民性を5つの文化的次元に分類した。そのひとつが「権力格差」(Power Distance)である¹⁾。これは社会におけるヒエラルキーと、そのヒエラルキーが人間同士の関係や社会制度の機能に与える影響を指標化したものである。わかりやすく言えば、社会集団内の諸関係(例えば、政府と国民、上司と部下、年長者と若者)がいかなるものであるか、権力をもたない者がどれくらい従順で、権力配分の不公平をどの程度まで許容するかといったことを示している。「権力格差」の指標には高低があり、世界各国を1から120の点数で評価する。日本の権力格差指数(PDI)は54で平均に近く、ロシアは93とかなり高い。

日ロ両国の国民の政治的な行動と反応は大きく異なり、コロナ危機において講じられた対策や反応にもそれが現れている。日本とロシアはパンデミックにおいて文化的に対極的な反応を示していると言えるだろう。以下では、ホフステードの「権力格差」という分析の枠組みを用いて、新型コロナウイルスを巡る日ロ両国の政府の対応と国民の反応を比較することにした。